

第4回豊橋市緑の基本計画（仮称）検討委員会議事録（案）

○日時：令和2年10月5日（月）午後2時～午後3時40分

○場所：豊橋市役所西館7階 第1委員会室

○出席委員：別紙「出席者名簿」参照

○事務局：6名

【会議資料】

◆次第

◆【資料1】豊橋市緑の基本計画（仮称）素案

◆【資料2】今後のスケジュール

1. 豊橋市緑の基本計画（仮称）素案

【質疑】

（稲吉担当課長）

・P24の指標で「農業生産基盤整備面積」とあるが、定義を教えてください。

（事務局）

・土地改良を行う面積である。「三郷」地区と「東細谷」地区を予定している。

（寺本副委員長）

・整備する面積が指標として適切かどうか。農地全体の面積を教えてください。全体からすると、小さい話になるのではないかと。

（事務局）

・農地全体の面積は5,720ha。前計画では地域制緑地を掲げていたが、農地は開発行為等あり、指標として掲げる事が難しいため、今回は農地の土地改良の部分为目标として掲げた。

（堀越委員長）

・全体として農地の減少の幅は少ない。

（寺本副委員長）

・P24の指標について、希少な動植物が突然増えるのは難しい。目標は現状維持ではないかと。

（事務局）

・環境基本計画の指標になっているので、整合性を図る。

（原田委員）

・身近な公園でも小さな公園が多いが、管理出来ず茂みになっている所が多い。活用方法を考えて欲しい。アダプト制度の必要性についても考えて欲しい。

（堀越委員長）

・今回計画の素案の「施策3-1 地域のニーズに応じた公園の整備」で新たな整備及び再整

備時はワークショップを通じてと記載している。

(稲吉担当課長)

- ・施策が選ばれた理由を教えて欲しい。例えば、P5のアンケートでは「質を高める」とあるが施策には含まれているのか。

(事務局)

- ・P15で課題を記載しているが、どう課題が反映されているのか又重要なポイントについて内部でも指摘がある。今後修正をしていきたい。

(川西委員)

- ・農地がトップトピックスになっているが、農地は農家の経済的基盤であり、緑の基本計画で農地の保護を謳^{うた}っているが、意味があるのか。施策1-5の耕作放棄地の記述について一方的な面もある。Park-PFIについて市内で候補地はあるのか。

(事務局)

- ・Park-PFIの具体的な候補地はないが今後行っていきたいと考えている。

(寺本副委員長)

- ・民間活力の導入について指標はなくていいのか。

(事務局)

- ・今後10年間で形にしていきたいが、豊橋市ではハードルが高いと考えているので指標には入れていない。

(西川委員)

- ・大きな観点より小さな観点から始める事が大事。ボランティア等。岩屋緑地でも行っている。

(寺本副委員長)

- ・民間活力の導入は大きな観点ばかりではない。例えば、豊橋公園では美術博物館のカフェがある。

(堀越委員長)

- ・Park-PFIでも様々なやり方がある。

(西村委員)

- ・高師緑地はミラまちが出来て400世帯増えるため、Park-PFIのモデルになるのではないか。キッチンカーが流行っており、2~3台あるといいのではないか。
- ・計画内に適切な維持管理とあるが、市が行うという事でいいのか。身近な本郷公園では木が茂っており、うまく管理出来ていない。2~3月に2回草刈りして終わりだが、夏になると草が伸びて、ボランティアも対処出来ない。

(事務局)

- ・昔は公園に木をたくさん植えて樹形を大事にしたので、今、結果茂っている。公園も多く手が回っていないところがある。年間3回は草刈りを行いたいが、維持管理費が抑制されており、年間2回の場合もある。最近は自動販売機の設置で収入を得たり、公園スポン

サー制度を導入して維持管理費に回している。いつ草取りを行うか示すと、出来ない場合もある。アンケートを取って事前修正する形で行っていききたい。

(原田委員)

- ・公園に大木ばかりあり、茂みが多いので犯罪の温床になるのではないか。利用が少ない公園は草が生えないようなかたちにする事を考えて欲しい。低木だとゴミの不法投棄がある。

(堀越委員長)

- ・自治体が積極的な意思を示してロードマップを作る等がいいのではないか。

(近藤委員)

- ・緑の基本計画内で農業の記述は昔からあるのか。農地は自前で管理しており、耕作放棄地もやりたくなくてやっていないわけではない。農家は自分の生計のためにやっている。計画内で農地について記載することが適当なのか。

(事務局)

- ・P3で緑の対象として「農地」が含まれており、除外は難しい。

(川西委員)

- ・農地が緑で覆われていなければいけないというのは、農業者からすると圧迫感がある。

(堀越委員長)

- ・農地は生産活動をする上で結果的に緑となっている。施策1で農地が出てきているが、順番は考えてもいいのではないか。

(三矢委員)

- ・施策3-3はもう少し手厚く記載してもいいのではないか。キッチンカーは許可の申請をすれば公園内で出来るのか。出来るのであれば「収益を上げる事で公園も活性化される」旨を加筆されてはどうか。
- ・P30の施策5-1について、岡崎市は老人会が身近な公園の維持活動を行っていることが多いが、活動継続が難しい例が出てきており、新たな形を模索している。施策5-1について、「多様な担い手」と記載してはどうか。(市民ワークショップでの意見を反映して)若い人が持続的に関われる「ポイント制」とか、より強い表現でもいいのではないか。
- ・アンケートについて調査対象があるが市民アンケートは「誰が答えたか。」企業アンケートは「どれだけの企業が答えたか。」ワークショップは「誰が参加したか。」記載すると説得力がある。

(事務局)

- ・公園内のキッチンカーの営業は現在検討している。施策3-3は、より記載を手厚くし、アンケートの記載についても検討する。

(辛島委員)

- ・分かりやすさが欲しい。施策3-3についてももう少し記述が欲しい。トイレの改修について、アンケートで要望があるとのことだが、トイレを改修すると公園の魅力が上がるのか。

その改修分を維持管理費に充てるのもいいのではないか。「緑化重点地区内の緑視率の向上」の指標（施策4）についてどのように上がると考えているか。

（事務局）

- ・内部でもトイレかその他を含めるのか議論があるが、アンケートでも要望が多く特化してもいいのではと考えている。「緑化重点地区内の緑視率の向上」について、萱町や水上ビルの辺りで緑の協会と連携して緑を増やしている。また、まちなか活性課で老朽化したビルの建て替えについて補助金を検討しているが、緑化を含める事が出来ればいいと考えている。

（川西委員）

- ・駅前大通りの緑地整備は生活者だけでは厳しい。駅前大通りに多くある銀行等大企業法人にもSDGs活動を含む地域協力の意向があると思うので、市としてもそうした法人に声かけして協力してもらう手もあるのではないか。広小路もプランターの水やり等の参加者は少なくなっている。

（中村課長）

- ・P15の（1）（2）（3）の部分について、文章がつながっていない。また、P19以降の将来イメージについて文章が現在形になっているが、将来のイメージなので未来形ではないか。

（西村委員）

- ・P18の表の「市内の生物多様性を代表する希少な動植物の種類増加」とあるが、P24の表現と違う。

（事務局）

- ・訂正します。

（寺本副委員長）

- ・ボランティアは義務的に参加すると面白くない。若い人を巻き込む楽しい感じで行う事について知恵を絞ってほしい。

（西川委員）

- ・コロナ禍で子供が岩屋緑地に来ている。岩屋緑地に親しむ会では新たな取組を考えている。より積極的な取組を行う事でボランティアも増えてくる。公園利用者は、より公園緑地課に相談し、公園緑地課は公園利用者に提案してもいい。

（堀越委員長）

- ・指標と施策の関係についてより丁寧に説明して欲しい。テーマが散りばめられているので、見やすくしてほしい。個人的には「民間活力の導入」「公園の維持管理」がテーマではないかと考えている。
- ・PDCAサイクルは個人的には緑化には合わないと考えている。

（三矢委員）

- ・Planがラフな段階でもDoに力を入れる、「まずやってみる。」「実行する。」ということ

が強調されてもいいのではないか。

2. 今後のスケジュールについて

(質疑なし。)

3. その他

- ・堀越委員長より第5回検討委員会の開催について令和3年2月頃開くこと、日程については決まり次第事務局より連絡がある事が案内された。

(堀越委員長)

- ・他に特になければ、委員長一任とさせていただきたい。本日発言できなかったところがあれば、1週間以内に事務局へ連絡していただきたい。

4. 閉会

- ・堀越委員長より、閉会の挨拶が行われた。

5. その他

(三矢委員より追加の意見)

・いただいた素案に「公園協力会」という固有名詞が出てきますね。これ、どのくらい豊橋市民に知られた存在なのか存じませんが、一般論として説明というか、用語解説のようなものが必要と思いました。冒頭または巻末に入れるイメージです。

・3-3で三矢が「指定管理や設置許可、キッチンカーの乗り入れなどを駆使して、民間活力を活用した、賑わいづくりをしては」と指摘したのですが、比較的似た内容が3-2でも触れられていますね。ここの整理を検討いただけますか。三矢案としては、3-2、3-3を統合して「民間活力を活用した維持管理および賑わいづくり」にしてしまってもどうか、と思いました。